

自己資本の状況

◇自己資本比率の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズにこたえるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理および業務の効率化等に取り組んだ結果、平成30年3月末における自己資本比率は、9.82%となりました。

◇経営の健全性の確保と自己資本の充実

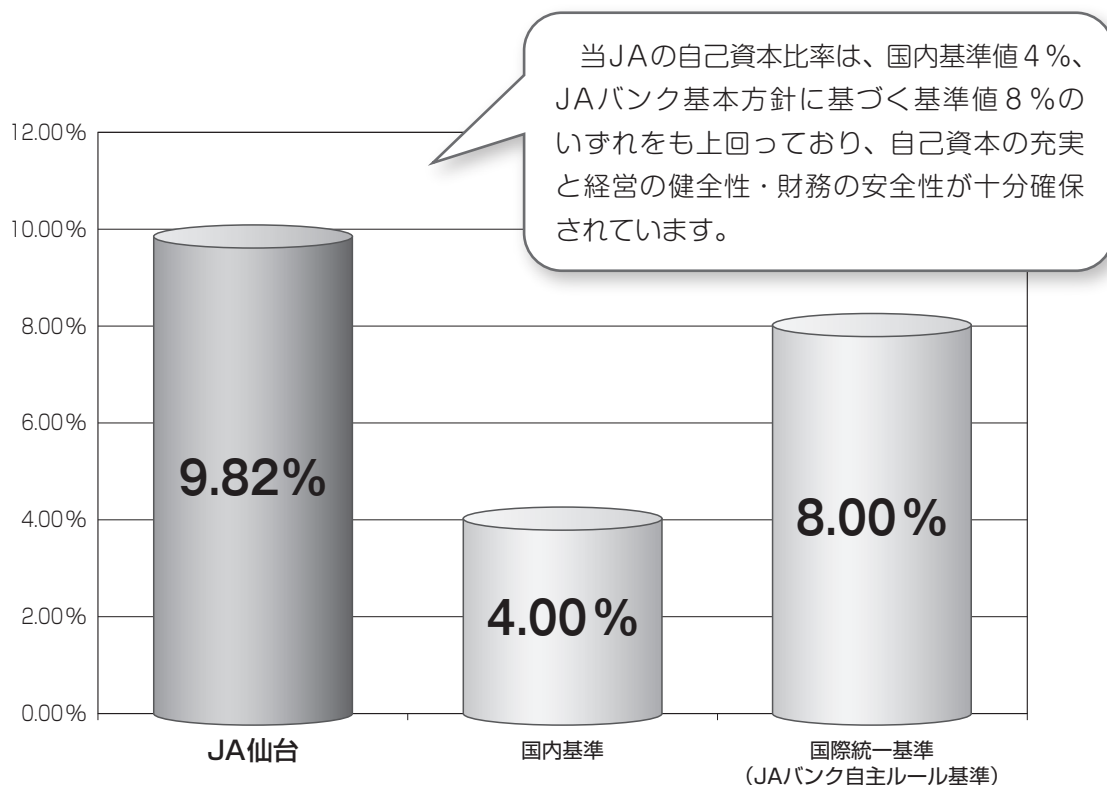
当JAの自己資本は、組合員の普通出資によっています。

○普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	仙台農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	3,434百万円（前年度3,462百万円）

当JAは、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当JAが抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理およびこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

また、19年度から、信用リスク、オペレーショナル・リスク、金利リスクなどの各種リスクを個別の方法で質的または量的に評価し、リスクを総合的に捉え、自己資本と比較・対照し、自己資本充実度を評価することにより、経営の健全性維持・強化を図っております。



JA仙台の自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額 } 13,311 \text{ 百万円}}{\text{リスクアセット+オペレーショナルリスク } 135,511 \text{ 百万円}} = \text{9.82\%} \\ \text{(自己資本比率)}$$

自己資本

自己資本は、コア資本にかかる基礎項目（普通出資、内部留保、一般貸倒引当金等）－コア資本にかかる調整項目の額とした広義の自己資本を表します。当JAの自己資本は組合員の普通出資によります。コア資本にかかる基礎項目に算入した額は13,321百万円です。

リスクアセット

銀行などの自己資本比率を計算するうえでの資産のことで、貸出金や保有している有価証券などを損失が発生する可能性に応じて評価しなおして算出します。例えば、安全性の高い国債は保有額がいくらか多くてもゼロとみなし、リスクの高いものはそのリスクに応じてリスクアセットに計上します。したがって、保有資産のリスクが大きければ大きいほど分母が大きくなり、自己資本比率は低下します。

オペレーショナルリスク

オペレーショナルリスクとは、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクのことです。